

ライティングにおいて出された提言一覧

グループ名	番号	提言内容	署名件数
子育て	子 1	青山町の子どもを、町民みんなで育てていく。	47
	子 2	家族で子育てについて、相談する時間を持つ。	31
	子 3	子育てを誰かに任せてしまうのではなく、子どもと過ごす時間を持つ。	37
	子 4	地域で土曜日の子どもたちの活動にボランティアとして参加する。	24
介護	介 1	現在介護している人も将来介護する人も介護の負担を軽減するために施設を利用できるようにする。	37
	介 2	少子高齢化で将来ますます介護は配偶者がすることが多くなっていくので介護についての知識を身につけておく。	37
	介 3	介護は女性がするものとして考えられがちだが、家族皆で協力、分担し、介護にあたる人の負担を軽くしていく。	37
地域社会	地 1	得意分野（自分が出来る範囲での）をいかすボランティア仲間（グループ）を作る。	14
	地 2	若者が生きがいを持って定住できる青山町にしていく。青山町の特産物の開発。地域を有効利用し、若者の働く場所を作る。	22
	地 3	若者が生きがいを持って定住できる青山町にしていく。	24
	地 4	自治会に対する住民の意識を高める活動をする。（桐ヶ丘自治会活動の事例から）	7
	地 5	少子化、高齢化、過疎化の進む中で住みよい環境をつくっていく。	14
	地 6	自治会に女性の参画、女性の意見を多くとり入れられるようにする。	16
	地 7	自分の住んでいる自治会にもっと関心を持ち積極的に参加しようとする意識をもつ。	10
	地 8	少子高齢化が進んでいる現状を考慮し、老若男女誰もが地域へ参加できるようにする。	4
	地 9	地域の会員とのコミュニケーションをとる。	8
	地 10	昔のような綺麗な川にしたい。	37
	地 11	ゴミの減量、分別を家庭で、公共の場でどのように考え行動しているか、女性ばかりにまかせず、みんなで考え行動する。	31
	地 12	地域の環境を見直す。（ゴミの出し方は決められたルールを守っているか。犬のフンを持ち帰っているか。川や道路や公園は美しいか。）	21
	地 13	ビニール袋に入りそれがトレーに入れられその上にラップをして、さらにビニールの袋に入れてもらい「なんでここまで？」と無駄の多さにびっくり。資源を大切に利用する。	28
	地 14	老人の世話をいやがり退院即入所のケースが見受けられる。人間の温かさが欠けていくのを見るのがつらい。	9
	地 15	男性にも介護休暇があっても、まず介護は女性の肩にかかっている。専業主婦はなおさらである。老人の通院も女性に任されている場合が多い。	19
	地 16	どちらかが病気になった時、長期間の治療による介護疲れで共倒れになる場合がある。	7
	地 17	地域で一人暮らしの家が多くなってきている。	11
	地 18	高齢化社会に向けて歩きやすい町づくりをする。郵便局や買い物に行きやすくする。	28
	地 19	審議会に限らず、町主導の会には必ず女性を20～30%積極的に登用する。	14
	地 20	高尾にある施設であるが、地域住民で考えるにはあまりにも大きい問題である。多くのみなさんから機知に富む提案をお願いする。	20
	地 21	公民館に専任職員を設置し、地域住民のよりどころとなるような活動の場とする。	25
	地 22	週休完全2日制が4月からスタートする。“地域の子どもを地域で育てよう”“いろいろな体験をさせて生きる力を身につけさせよう”との声が大きくなっている。青山町でもしっかりとした子育て支援体制をつくろう。	17
	地 23	公民館講座内容及びサークル活動を充実し、町民の参画を多くする。	13
	地 24	休校になる小学校を地域公民館活動や高齢者のいこいの場所として運営する。	14
	地 25	小学校のあと地の利用と空き地の利用。	11
	地 26	行政が主となる組織のメンバーに婦人会等の団体からあて職的に選ばないでほしい。	13
子育て	子 1	青山町の子どもを、町民みんなで育てていく。 近所の子どもの名前を覚える。 近所の子どもに、あいさつ・声かけをしていく。 近所の子どもたちを、ほめる・しかる。	47
	子 2	家族で子育てについて、相談する時間を持つ。 週に1時間程度、子どものことについて話し合う時間をもつ。	31
	子 3	子育てを誰かに任せてしまうのではなく、子どもと過ごす時間を持つ。 子どもと話し合いをする時間を持つ。 子どもと一緒に何かをする時間を持つ。	37
	子 4	地域で土曜日の子どもたちの活動にボランティアとして参加する。 スポーツ（ ） 体験活動（ ） 自然体験（ ） 製作活動（ ） 場所の提供・居場所作り（ ）	24

グループ名	番号	提 言 内 容	署名件数
介 護	介 1	現在介護している人も将来介護する人も介護の負担を軽減するために施設を利用できるようにする。 介護に必要な知識の講習会等を開いていく。 社会福祉に対する町の方針と制度を広報などで広げていく。 南部の廃校となる2校について老人福祉施設への活用を考えていく。	37
	介 2	少子高齢化で将来ますます介護は配偶者がすることが多くなっていくので介護についての知識を身につけておく。家族で話し合い役割分担を決めておく。 初歩的な介護の仕方について講習会等を受ける。 現在ある制度、施設についての勉強をしておく。	37
	介 3	介護は女性がするものとして考えられがちですが、家族皆で協力、分担し、介護にあたる人の負担を軽くしていく。お互いに感謝の気持ちでやさしい言葉をかける。 男性も介護を分担する。 家族で話し合い兄弟、姉妹も協力する。	37
地域社会	地 1	得意分野（自分ができる範囲での）をいかすボランティア仲間（グループ）を作る。 いろいろなメニューを作ってそれに賛同する人を公募し、無理のない範囲での「おたがいさま」の気持ちで手助けが出来るようにする。 自分の特技も生かせるメニューの中で「人の輪づくり」が出来る（おたがいさまカードの発行など）	14
	地 2	自分達の地域は自分達で守る。 出来る人が出来ることをする。 向こう3軒両隣りへの一声運動をし、日頃からのつきあいを心がける。	22
	地 3	若者が生きがいを持って定住できる青山町にしていく。青山町の特産物の開発。 地域を有効利用し、若者の働く場所を作る。	24
	自 1	自治会に対する住民の意識を高める活動をする。（桐ヶ丘自治会活動の事例から） 自治会広報の発行で自治会会員の意思疎通を図る 全役員参加による部会活動（役割分担）で活動を進める。 広域的活動（公民館活動と8自治会一体活動）で活動の効率化と住民意識の一体化を図る。	7
	地 1	少子化、高齢化、過疎化の進む中で住みよい環境をつくっていく。地域でのつながりを深め助け合いの精神で解決していく。 健康、運動、食生活、睡眠等に各自で気をつけ、行政もシステムを考える。	14
	自 2	自治会に女性の参画、女性の意見を多くとり入れられるようにする。家庭や地域で、男女が一緒になって自治会のことを話す。 女性が積極的な参加意欲をもつ。 組役員（組長）に女性の数を多くする。 自治会に女性の役員を入れる。	16
	自 3	自分の住んでいる自治会にもっと関心を持ち積極的に参加しようとする意識をもつ。 自治会、会合（総会等）に積極的に参加する。 クリーンデーに参加する。	10
	地 2	少子高齢化が進んでいる現状を考慮し、老若男女誰もが地域へ参加できるようにする。 自治会の役員へ女性の登用。 秋祭の当屋になった時の神社への参拝に女性の参加を認める。	4
	地 3	地域の会員とのコミュニケーションをとる。 役員になったもの（組長）が自治会費等を集める際、地域（自治会）について何か意見がないか聞く。	8
	地 4	昔のような綺麗な川にしたい。 生活排水を重点的に考え合併処理槽等を1日も早く設置するよう行政的に考える。 個人も昔の綺麗な川にするよう考えて行動する。	37
地 5	ゴミの減量、分別を家庭で、公共の場でどのように考え行動しているか、女性ばかりにまかせず、みんなで考え行動する。 各家庭で、分別の習慣づけ。 袋持参の買い物。 公共施設で集会する時は必ずゴミ袋の持参。	31	
地 6	地域の環境を見直す。（ゴミの出し方は決められたルールを守っているか。犬のフンを持ち帰っているか。川や道路や公園は美しいか） 地域で環境探検隊を作る。（大人、子供、男女を交えて川の担当、公園の担当など担当を分けて毎日チェックする。1年で汚い所はどれくらい美しくなるか。地域内で美しさを競って出来た地域は表彰する。一生懸命やりがいがあるようにする）	21	
地 7	ビニール袋に入りそれがトレーに入れられその上にラップをして、さらにビニールの袋に入れてもらい「なんでここまで？」と無駄の多さにびっくり。資源を大切に利用する。 男性、女性を問わず生活者のエチケットとして知識をつけるため実際に目で見たり触れたりして体験学習をしてもらう。	28	
地 8	老人の世話をいやがり退院即入所のケースが見受けられる。	9	
地 9	人間の温かさが欠けていくのを見るのがつらい。 お互いさまの精神で今一度即入所を考え直してほしい。		
地 10	男性にも介護休暇があっても、まず介護は女性の肩にかかっている。専業主婦はなおさらである。老人の通院も女性に任されている場合が多い。 家庭内で出来る人が対応する。 男性も考え方を変えてみる必要がある。	19	

グループ名	番号	提言内容	署名件数
地域社会	地 11	どちらかが病気になった時、長期間の治療による介護疲れで共倒れになる場合がある。 子ども達と連絡を取り、対処する。 子どももの無い方々には夫婦で入所出来る施設の充実を図る。	7
	地 12	地域で一人暮らしの家が多くなってきている。 小学校のあとを福祉の施設にしてはどうか。	11
	行 1	高齢化社会に向けて歩きやすい町づくりをする。郵便局や買い物に行きやすくする。 無料バスを出してほしい。 街灯を多くする。 スロープを多くする。	28
	行 2	審議会に限らず、町主導の会には必ず女性を20～30%積極的に登用する。女性であれば誰でもいいわけではないので教育と機会をつくる。(人材育成) 役場から実行し、地域へ広げていく。	14
	行 3	高尾にある施設であるが、地域住民で考えるにはあまりにも大きい問題である。多くのみなさんから機知に富む提案をお願いする。 本実行委員会グループからも、「老人施設・スポーツ合宿施設・公民館」などの意見も出されている。	20
	行 4	公民館に専任職員を設置し、地域住民のよりどころとなるような活動の場とする。 現行の館長以下ボランティア役員では活動に限界がある。 事務方としての人的配置と物的支援を行政に求める。	25
	行 5	週休完全2日制が4月からスタートする。“地域の子どもを地域で育てよう”“いろいろな体験をさせて生きる力を身につけさせよう”との声が大きくなっている。青山町でもしっかりとした子育て支援体制をつくろう。 昨年度、更正保護婦人会が全国の指定を受け、子育て支援事業に取り組んだ。各団体、グループが子どもにかかわってきた活動の聞き取りをして写真を借りて、写真展を開催した。各グループ団体がそれぞれの立場で一生懸命子ども達と共に活動していることがわかった。その体験から世代をこえ、地域をこえた町全体のネットワークづくりをしたい。“次代を生きる子を地域で育てよう”	17
	行 6	公民館講座内容及びサークル活動を充実し、町民の参画を多くする。公民館講座活動に対し住民からも要望を多く出す。 講座数をもっと多く魅力ある内容にする。 サークルなどに積極的に参加する。(特に男性の参加が少ない) 地域のサークル(クラブ)活動については公開し、どの地域へも参加できるようにする。 地域ごとに魅力ある活動に取り組む。	13
	行 7	休校になる小学校を地域公民館活動や高齢者のいこいの場所として運営する。 行政が第3セクターで会社を作る。 NPOで運営する方法を考える。(スタッフは必要だが、企画を立てる人員は募集する)	14
	行 8	小学校のあと地の利用と空き地の利用。 他府県からの合宿所やキャンプ場に利用して利益をあげる。	11
行 9	行政が主となる組織のメンバーに婦人会等の団体からあて職的に選ばないでほしい。 広報等でそれぞれの組織にふさわしい人材を募集し、選ぶべきである。	13	
行政	介 1	《行政に》 現在介護している人も将来介護する人も介護の負担を軽減するために施設を利用できるようにする。 介護に必要な知識の講習会等を開いていく。 社会福祉に対する町の方針と制度を広報などで広げていく。 南部の廃校となる2校について老人福祉施設への活用を考えていく。	37
	地 3	《町に》 若者が生きがいを持って定住できる青山町にしていく。 青山町の特産物の開発。 地域を有効利用し、若者の働く場所を作る。	24
	地 5	《地域及び行政に》 少子化、高齢化、過疎化の進む中で住みよい環境をつくっていく。 地域でのつながりを深め助け合いの精神で解決していく。 健康、運動、食生活、睡眠等に各自で気をつけ、行政もシステムを考える。	14
	地 18	《行政に》 高齢化社会に向けて歩きやすい町づくりをする。郵便局や買い物に行きやすくする。 無料バスを出してほしい。 街灯を多くする。 スロープを多くする。	28
	地 19	《行政に》 審議会に限らず、町主導の会には必ず女性を20～30%積極的に登用する。 女性であれば誰でもいいわけではないので教育と機会をつくる。(人材育成) 役場から実行し、地域へ広げていく。	14
	地 21	《公民館活動に》 公民館に専任職員を設置し、地域住民のよりどころとなるような活動の場とする。 現行の館長以下ボランティア役員では活動に限界がある。 事務方としての人的配置と物的支援を行政に求める。	25

グループ名	番号	提言内容	署名件数
行政	地 22	<p>《けやきのつどい実行委員及び行政に》 週休完全2日制が4月からスタートする。“地域の子どもを地域で育てよう”“いろいろな体験をさせて生きる力を身につけさせよう”との声が大きくなっている。青山町でもしっかりとした子育て支援体制をつくろう。 昨年度、更生保護婦人会が全国の指定をうけ、子育て支援事業に取り組んだ。各団体、グループが子どもにかかわってきた活動の聞き取りをして写真を借りて、写真展を開催した。各グループ団体がそれぞれの立場で一生懸命子ども達と共に活動していることがわかった。その体験から世代をこえ、地域をこえた町全体のネットワークづくりをしたい。“次代を生きる子を地域で育てよう”</p>	17
	地 23	<p>《公民館活動に》 公民館講座内容及びサークル活動を充実し、町民の参画を多くする。公民館講座活動に対し住民からも要望を多く出す。 講座数をもっと多く魅力ある内容にする。 サークルなどに積極的に参加する。(特に男性の参加が少ない) 地域のサークル(クラブ)活動については公開し、どの地域へも参加できるようにする。 地域ごとに魅力ある活動に取り組む。</p>	13
	地 24	<p>《行政に》 休校になる小学校を地域公民館活動や高齢者のいこいの場所として運営する。 行政が第3セクターで会社を作る。 NPOで運営する方法を考える。(スタッフは必要だが、企画を立てる人員は募集する)</p>	14
	地 25	<p>《小学校の跡地の活用に》 小学校のあと地の利用と空き地の利用 他府県からの宿所やキャンプ場に利用して利益をあげる。</p>	11
	地 26	<p>《行政に》 行政が主となる組織のメンバーに婦人会等の団体からあて職的に選ばないでほしい。 広報等でそれぞれの組織にふさわしい人材を募集し、選ぶべきである。</p>	13
	地 4	<p>《自治会活動の推進に》 自治会に対する住民の意識を高める活動をする。(桐ヶ丘自治会活動の事例から) 自治会広報の発行で自治会会員の意思疎通を図る。 全役員参加による部会活動(役割分担)で活動を進める。 広域的活動(公民館活動と8自治会一体活動)で活動の効率化と住民意識の一体化を図る。</p>	7
	地 6	<p>《自治会活動に》 自治会に女性の参画、女性の意見を多くとり入れられるようにする。 家庭や地域で、男女が一緒になって自治会のことを話す。 女性が積極的な参加意欲をもつ。 組役員(組長)に女性の数を多くする。 自治会に女性の役員を入れる。</p>	16
	地 7	<p>《自治会活動に》 自分の住んでいる自治会にもっと関心を持ち積極的に参加しようとする意識をもつ。 自治会、会合(総会等)に積極的に参加する。 クリーンデーに参加する。</p>	10
その他の地域社会	子 1	<p>《町民の皆様》 青山町の子どもを、町民みんなで育てていく。 近所の子どもの名前を覚える。 近所の子どもに、あいさつ・声かけをしていく。 近所の子どもたちを、ほめる・しかる。</p>	47
	子 2	<p>《子どものいる家族の方に》 家族で子育てについて、相談する時間を持つ。 週に1時間程度、子どものことについて話し合う時間をもつ。</p>	31
	子 3	<p>《子どものいる家族の方に》 子育てを誰かに任せてしまうのではなく、子どもと過ごす時間を持つ。 子どもと話し合いをする時間を持つ。 子どもと一緒に何かをする時間を持つ。</p>	37
	子 4	<p>《町民のみなさまに》 地域で土曜日の子どもたちの活動にボランティアとして参加する。 スポーツ() 体験活動() 自然体験() 製作活動() 場所の提供・居場所作り()</p>	24
	介 2	<p>《将来介護をする方に》 少子高齢化で将来ますます介護は配偶者がすることが多くなっていくので介護についての知識を身につけておく。家族で話し合い役割分担を決めておく。 初歩的な介護の仕方について講習会等を受ける。 現在ある制度、施設についての勉強をしておく。</p>	37

グループ名	番号	提言内容	署名件数
その他の 地域社会	介 3	<p>《現在介護している方に》 介護は女性がするものとして考えられがちですが、家族皆で協力、分担し、介護にあたる人の負担を軽くしていく。お互いに感謝の気持ちでやさしい言葉をかける。 男性も介護を分担する。 家族で話し合い兄弟、姉妹も協力する。</p>	37
	地 1	<p>《地域組織に》 得意分野（自分ができる範囲での）をいかすボランティア仲間（グループ）を作る。 いろいろなメニューを作ってそれに賛同する人を公募し、無理のない範囲での「おたがいさま」の気持ちで手助けが出来るようにする。 自分の特技も生かせるメニューの中で「人の輪づくり」が出来る（おたがいさまカードの発行など）</p>	14
	地 2	<p>《地域住民に》 自分達の地域は自分達で守る。 出来る人が出来ることをする。 向こう3軒両隣りへの一声運動をし、日頃からのつきあいを心がける。</p>	22
	地 8	<p>《自治会》 少子高齢化が進んでいる現状を考慮し、老若男女誰もが地域へ参加できるようにする。 自治会の役員へ女性の登用。 秋祭の当屋になった時の神社への参拝に女性の参加を認める。</p>	4
	地 9	<p>《自治会に》 地域の会員とのコミュニケーションをとる。 役員になったもの（組長）が自治会費等を集める際、地域（自治会）について何か意見がないか聞く。</p>	8
	地 10	<p>《地域住民及び行政》 昔のような綺麗な川にしたい。 生活排水を重点的に考え合併処理槽等を1日も早く設置するよう行政的に考える。 個人も昔の綺麗な川にするよう考えて行動する。</p>	37
	地 11	<p>《地域住民に》 ゴミの減量、分別を家庭で、公共の場でどのように考え行動しているか、女性ばかりにまかせず、みんなで考え行動する。 各家庭で、分別の習慣づけ。 袋持参の買い物。 公共施設で集会する時は必ずゴミ袋の持参。</p>	31
	地 12	<p>《地域住民に》 地域の環境を見直す。（ゴミの出し方は決められたルールを守っているか。犬のフンを持ち帰っているか。川や道路や公園は美しいか） 地域で環境探検隊を作る。（大人、子供、男女を交えて川の担当、公園の担当など担当を分けて毎日チェックする。1年で汚い所はどれくらい美しくなるか。地域内で美しさを競って出来た地域は表彰する。一生懸命やりがいがあるようにする）</p>	21
	地 13	<p>《地域住民に》 ビニール袋に入りそれがトレーに入れられその上にラップをして、さらにビニールの袋に入れてもらい「なんでここまで？」と無駄の多さにびっくり。資源を大切に利用する。 男性、女性を問わず生活者のエチケットとして知識をつけるため実際に目で見たり触れたりして体験学習をしてもらう。</p>	28
	地 14	<p>《特別老人ホームの入所について》 老人の世話をいやがり退院即入所のケースが見受けられる。 人間の温かさが欠けていくのを見るのがつらい。 お互いさまの精神で今一度即入所を考え直してほしい。</p>	9
	地 15	<p>《地域住民に》 男性にも介護休暇があっても、まず介護は女性の肩にかかっている。専業主婦はなおさらである。老人の通院も女性に任されている場合が多い。 家庭内で出来る人が対応する。 男性も考え方を試してみる必要がある。</p>	19
	地 16	<p>《老人家庭に》 どちらかが病気になった時、長期間の治療による介護疲れで共倒れになる場合がある。 子ども達と連絡を取り、対処する。 子どもの無い方々には夫婦で入所出来る施設の充実を図る。</p>	7
	地 17	<p>《行政に》 地域で一人暮らしの家が多くなってきている。 小学校のあとを福祉の施設にしてはどうか。</p>	11
	地 20	<p>《その他》 高尾にある施設であるが、地域住民で考えるにはあまりにも大きい問題である。多くのみなさんから機知に富む提案をお願いする。 本実行委員会グループからも、「老人施設・スポーツ合宿施設・公民館」などの意見も出されている。</p>	20

グループ名	番号	提言内容	署名件数
行政	介 1	《行政に》 現在介護している人も将来介護する人も介護の負担を軽減するために施設を利用できるようにする。 介護に必要な知識の講習会等を開いていく。 社会福祉に対する町の方針と制度を広報などで広げていく。 南部の廃校となる2校について老人福祉施設への活用を考えていく。	37
	地 3	《町に》 若者が生きがいを持って定住できる青山町にしていく。 青山町の特産物の開発。 地域を有効利用し、若者の働く場所を作る。	24
	地 5	《地域及び行政に》 少子化、高齢化、過疎化の進む中で住みよい環境をつくっていく。 地域でのつながりを深め助け合いの精神で解決していく。 健康、運動、食生活、睡眠等に各自で気をつけ、行政もシステムを考える。	14
	地 18	《行政に》 高齢化社会に向けて歩きやすい町づくりをする。郵便局や買い物に行きやすくする。 無料バスを出してほしい。 街灯を多くする。 スロープを多くする。	28
	地 19	《行政に》 審議会に限らず、町主導の会には必ず女性を20～30%積極的に登用する。 女性であれば誰でもいいわけではないので教育と機会をつくる。(人材育成) 役場から実行し、地域へ広げていく。	14
	地 21	《公民館活動に》 公民館に専任職員を設置し、地域住民のよりどころとなるような活動の場とする。 現行の館長以下ボランティア役員では活動に限界がある。 事務方としての人的配置と物的支援を行政に求める。	25
	地 22	《けやきのつどい実行委員及び行政に》 週休完全2日制が4月からスタートする。“地域の子どもを地域で育てよう”“いろいろな体験をさせて生きる力を身につけさせよう”との声が大きくなっている。青山町でもしっかりと子育て支援体制をつくろう。 昨年度、更生保護婦人会が全国の指定を受け、子育て支援事業に取り組んだ。各団体、グループが子どもにかかわってきた活動の聞き取りをして写真を借りて、写真展を開催した。各グループ団体がそれぞれの立場で一生懸命子ども達と共に活動していることがわかった。その体験から世代をこえ、地域をこえた町全体のネットワークづくりをしたい。“次代を生きる子を地域で育てよう”	17
	地 23	《公民館活動に》 公民館講座内容及びサークル活動を充実し、町民の参画を多くする。公民館講座活動に対し住民からも要望を多く出す。 講座数をもっと多く魅力ある内容にする。 サークルなどに積極的に参加する。(特に男性の参加が少ない) 地域のサークル(クラブ)活動については公開し、どの地域へも参加できるようにする。 地域ごとに魅力ある活動に取り組む。	13
	地 24	《行政に》 休校になる小学校を地域公民館活動や高齢者のいこいの場所として運営する。 行政が第3セクターで会社を作る。 NPOで運営する方法を考える。(スタッフは必要だが、企画を立てる人員は募集する)	14
	地 25	《小学校の跡地の活用に》 小学校のあと地の利用と空き地の利用。 他府県からの合宿所やキャンプ場に利用して利益をあげる。	11
地 26	《行政に》 行政が主となる組織のメンバーに婦人会等の団体からあて職的に選ばないでほしい。 広報等でそれぞれの組織にふさわしい人材を募集し、選ぶべきである。	13	
自治会	地 4	《自治会活動の推進に》 自治会に対する住民の意識を高める活動をする。(桐ヶ丘自治会活動の事例から) 自治会広報の発行で自治会会員の意思疎通を図る。 全役員参加による部会活動(役割分担)で活動を進める。 広域的活動(公民館活動と8自治会一体活動)で活動の効率化と住民意識の一体化を図る。	7
	地 6	《自治会活動に》 自治会に女性の参画、女性の意見を多くとり入れられるようにする。 家庭や地域で、男女が一緒になって自治会のことを話す。 女性が積極的な参加意欲をもつ。 組役員(組長)に女性の数を多くする。 自治会に女性の役員を入れる。	16
	地 7	《自治会活動に》 自分の住んでいる自治会にもっと関心を持ち積極的に参加しようとする意識をもつ。 自治会、会合(総会等)に積極的に参加する。 クリーンデーに参加する。	10

グループ名	番号	提言内容	署名件数
自治会	地 8	《自治会》 少子高齢化が進んでいる現状を考慮し、老若男女誰もが地域へ参加できるようにする。 自治会の役員へ女性の登用。 秋祭の当屋になった時の神社への参拝に女性の参加を認める。	4
	地 9	《自治会に》 地域の会員とのコミュニケーションをとる。 役員になったもの（組長）が自治会費等を集める際、地域（自治会）について何か意見がないか聞く。	8
その他の地域社会	子 1	《町民の皆様》 青山町の子どもを、町民みんなで育てていく。 近所の子どもを名前を覚える。 近所の子どもに、あいさつ・声かけをしていく。 近所の子どもたちを、ほめる・しかる。	47
	子 2	《子どものいる家族の方に》 家族で子育てについて、相談する時間を持つ。 週に1時間程度、子どものことについて話し合う時間をもつ。	31
	子 3	《子どものいる家族の方に》 子育てを誰かに任せてしまうのではなく、子どもと過ごす時間を持つ。 子どもと話し合いをする時間を持つ。 子どもと一緒に何かをする時間を持つ。	37
	子 4	《町民のみなさまに》 地域で土曜日の子どもたちの活動にボランティアとして参加する。 スポーツ（ ） 体験活動（ ） 自然体験（ ） 製作活動（ ） 場所の提供・居場所作り（ ）	24
	介 2	《将来介護をする方に》 少子高齢化で将来ますます介護は配偶者がすることが多くなっていくので介護についての知識を身につけておく。家族で話し合い役割分担を決めておく。 初歩的な介護の仕方について講習会等を受ける。 現在ある制度、施設についての勉強をしておく。	37
	介 3	《現在介護している方に》 介護は女性がするものとして考えられがちだが、家族皆で協力、分担し、介護にあたる人の負担を軽くしていく。お互いに感謝の気持ちでやさしい言葉をかける。 男性も介護を分担する。 家族で話し合い兄弟、姉妹も協力する。	37
	地 1	《地域組織に》 得意分野（自分が出来る範囲での）をいかすボランティア仲間（グループ）を作る。 いろいろなメニューを作ってそれに賛同する人を公募し、無理のない範囲での「おたがいさま」の気持ちで手助けが出来るようにする。 自分の特技も生かせるメニューの中で「人の輪づくり」が出来る（おたがいさまカードの発行など）	14
	地 2	《地域住民に》 自分達の地域は自分達で守る。 出来る人が出来ることをする。 向こう3軒両隣りへの一声運動をし、日頃からのつきあいを心がける。	22
	地 10	《地域住民及び行政》 昔のような綺麗な川にしたい。 生活排水を重点的に考え合併処理槽等を1日も早く設置するよう行政的に考える。 個人も昔の綺麗な川にするよう考えて行動する。	37
	地 11	《地域住民に》 ゴミの減量、分別を家庭で、公共の場でどのように考え行動しているか、女性ばかりにまかせず、みんなで考え行動する。 各家庭で、分別の習慣づけ。 袋持参の買い物。 公共施設で集会する時は必ずゴミ袋の持参。	31
	地 12	《地域住民に》 地域の環境を見直す。（ゴミの出し方は決められたルールを守っているか。犬のフンを持ち帰っているか。川や道路や公園は美しいか） 地域で環境探検隊を作る。（大人、子供、男女を交えて川の担当、公園の担当など担当を分けて毎日チェックする。1年で汚い所はどれくらい美しくなるか。地域内で美しさを競って出来た地域は表彰する。一生懸命やりがいがあるようにする）	21
	地 13	《地域住民に》 ビニール袋に入りそれがトレーに入れられその上にラップをして、さらにビニールの袋に入れてもらい「なんでここまで？」と無駄の多さにびっくり。資源を大切に利用する。 男性、女性を問わず生活者のエチケットとして知識をつけるため実際に目で見たり触れたりして体験学習をしてもらう。	28

グループ名	番号	提言内容	署名件数
その他の 地域社会	地 14	《特別養護老人ホームの入所について》 老人の世話をいやがり退院即入所のケースが見受けられる。 人間の温かさが欠けていくのを見るのがつらい。 お互いさまの精神で今一度即入所を考え直してほしい。	9
	地 15	《地域住民に》 男性にも介護休暇があっても、まず介護は女性の肩にかかっている。専業主婦はなおさらである。老人の通院も女性に任されている場合が多い。 家庭内で出来る人が対応する。 男性も考え方を変えてみる必要がある。	19
	地 16	《老人家庭に》 どちらかが病気になった時、長期間の治療による介護疲れで共倒れになる場合がある。 子ども達と連絡を取り、対処する。 子どもの無い方々には夫婦で入所出来る施設の充実を図る。	7
	地 17	《行政に》 地域で一人暮らしの家が多くなってきている。 小学校のあとを福祉の施設にしてはどうか。	11
	地 20	《その他》 高尾にある施設であるが、地域住民で考えるにはあまりにも大きい問題である。多くのみなさんから機知に富む提案をお願いする。 本実行委員会グループからも、「老人施設・スポーツ合宿施設・公民館」などの意見も出されている。	20